

令和7年度

牟岐中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①主体的に学習する姿勢を喚起し、基礎基本を定着させる授業の確立。
- ②体験活動や言語活動の充実。
- ③保小中の系統的な学習方法の確立。

校長

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や、教員による相互授業参観や情報交換を通して、取組状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○授業態度は良好で、朝自習にも集中して取り組むことができている。また、与えられた課題の提出率も高い。 ●聞く力及び読む力がやや弱い。与えられた課題以外の家庭での学習や、読書をする時間を確保する必要がある。	・基礎的・基本的な知識の定着を目指して、意欲的に授業に取り組むことができる。 ・様々な教科の学習や、多岐にわたる教育活動において、身に付けた知識を活用し、主体的に取り組むことができる。	・生徒の学びが深まるような発問や学習方法を工夫していく。 ・家庭学習調査を適宜行うことで、生徒の家庭での学習の取り組みを把握し、生徒の家庭学習がより充実していくように指導する。 ・相互参観授業を行うことで教員間の情報交換を行い、授業内容の改善につなげる。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分で調べたことを発表したり、他の生徒の発表に対して質問したりするなど、意欲的に言語活動に取り組むことができる。 ●授業で意見を求められたり、教科書の内容に関する質問をされたりするときなど、自分の考えを整理することに苦手意識がある。	・発表を通して、自他の考えを尊重し、さらにより表現活動につなげることができる。 ・異年齢集団や地域の方々と積極的にコミュニケーションを図り、自分の意見をまとめることができる。	・授業プランの中に、発表する機会を設けることを意識し、言語活動の充実を図る。 ・ICTを利用するなど、発表する方法にバリエーションを持たせ、生徒の発表する意欲を高める。 ・保・小・中全体で、「聞くこと」と「読むこと」に重点を置いた教育活動を行う。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学習や生活のルールを守ることを意識し、それぞれの授業に前向きに取り組むことができている。 ●分からないことや苦手なことに対してあきらめてしまう生徒が多く、克服しようとする意欲を持つことに課題がある。	・学ぶ楽しさや喜びを感じながら、主体的に学習に取り組むことができる。 ・自分自身の課題が何であるかを把握し、その課題を解決できるような計画を立てて、実践することができる。	・生徒の授業に対する姿勢を尊重し、生徒を認めることができる活動を実践する。 ・授業の目標の提示や授業の振り返りを行うことで、生徒自身が自分の課題を把握しやすいように工夫していく。 ・生徒との対話を重視し、個に応じた指導ができるように、生徒理解を深めていく。			